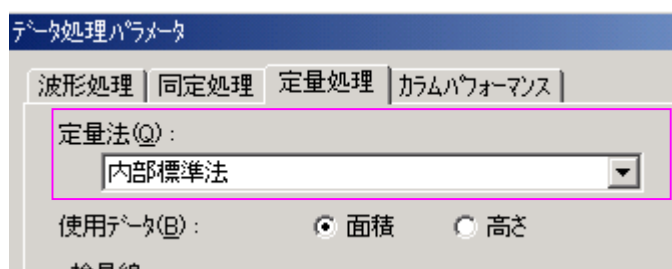


内部標準法を使った定量方法

- 1) [LC 再解析]ウィンドウの[LC(もしくは PDA)データ解析]画面、または[検量線]画面で[メソッド]—[データ処理パラメータ]、もしくはクロマトグラムや検量線画面上の右クリックメニューなどから[データ処理パラメータ]の[定量処理]タブを開けます。
- 2) [定量法]の[内部標準法]を選択します。外部標準法と同様に、他必要な項目を設定します。[データ処理パラメータ]を閉じます。



- 3) [化合物テーブルビュー]で[設定]タグをクリックし、ビュー右上の [編集] アイコンをクリックします。
- 4) 化合物テーブルに[タイプ]と[ISTD グループ]の項目が表示されていることを確認します。表示されていない場合には、右クリックメニューの[テーブルスタイル]を選び、上記 2 項目を[表示するアイテム]に選択してください。

内部標準に用いる成分は「タイプ」を「ISTD」と設定します。「ISTD グループ」は内部標準成分とそれをもとにして定量を行いたい成分と同じ番号を入力します。

ID#	化合物名	タイプ	解析チャンネル	ISTDグループ	保持時間	濃度(1)
1	Methyl-paraben	ISTD	検出器 A - Ch	1	2.652	1
2	Ethyl-paraben	ISTD	検出器 A - Ch	2	3.239	10
3	Propyl-paraben	ターゲット	検出器 A - Ch	1	3.952	1
4	Butyl-paraben	ターゲット	検出器 A - Ch	2	4.646	1
5		ターゲット	検出器 A - Ch	2	0.001	1

他、外部標準法のとおりに行います。検出器が複数ある場合、PDA 検出器を用いている場合には、解析チャンネルに気をつけましょう。

- 5) 標準試料濃度を入力します。
- 6) [化合物テーブルビュー]右上の[表示]アイコンをクリックします。内容が確定されます。
- 7) 以上の内容を保存します。

[データ処理パラメータ]や[化合物テーブル]は、[データ解析]画面で変更していた場合はデータ内メソッドの変更をしたことになります。[メソッドの適用]アイコンでメソッドファイルへ内容を保存します。

- 8) 検量線を作成します。

他の方法と同様に検量線を作成します。検量線軸は、面積比(高さ比)と濃度比になります。